

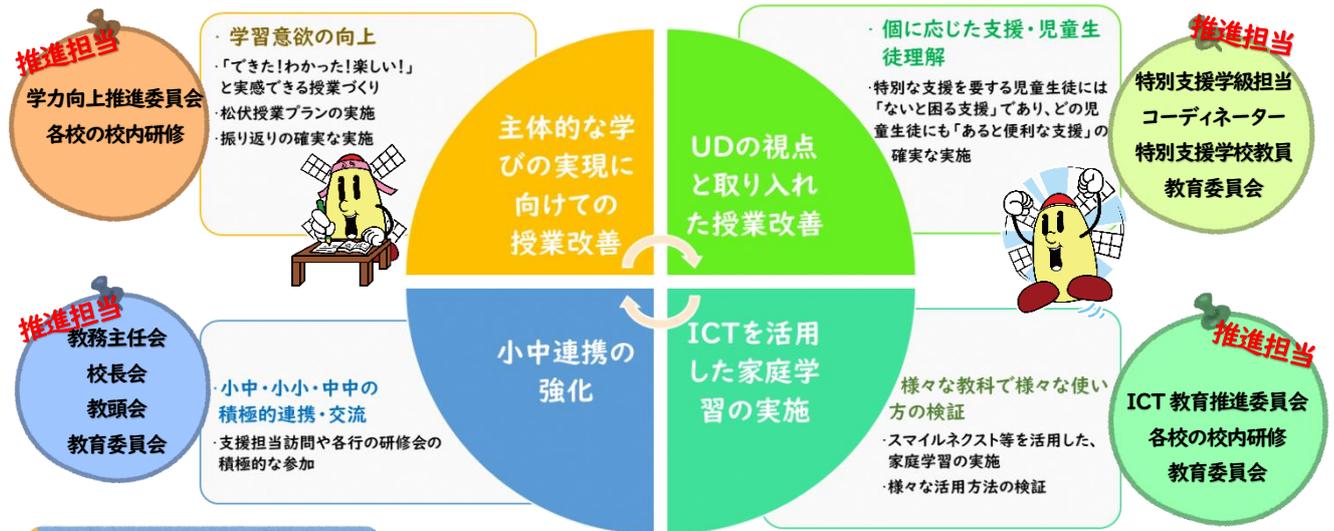
令和5年度 学力向上に係る効果的な取組事例

全ての児童生徒が安心して参加し「わかった!・できた!」と実感できる授業づくり 松伏町教育委員会



松伏町では今年度、以下の4つの視点について重点的に取り組み、子どもたちにとって「わかった!できた!楽しい!」と思える授業づくりをめざして「学力向上スタンダード」を作成しました。

松伏の5校が、子どもたちの「わかりたい」「できるようになりたい」という思いや願いを大切にしながら授業を進めるためには「個に応じた指導や支援」＝「個別最適な学び」が重要だと考えます。そして、個別最適な学びが実現できれば、子どもたちの「学習意欲」「自己効力感」をより一層向上させることができると考えます。



1 全校共通の指導の視点

理解をしてくれる人たちがいることで
安心して SOS が出せる環境づくりが大切です。

取組チェックシート 1

★すべての教科

学習過程	学習意欲の向上に向けての取組	
つかむ	必要感のある導入	興味・関心を高めるための工夫をする (デジタル教材含む) 児童生徒とのやりとりを通して問題場面を理解できるようにする (教師はファシリテーターとしての役割)
	課題をたてる	児童生徒とのやりとりから課題を設定する 「5W1H」を意識した課題となっている
考える	指導の個別化	少人数やTTによる指導、ヒントカードなど、児童生徒一人一人に対応し、個に応じた手立てを講じている
	学習の個別化	いくつかの学習方法 (ノートやプリント、タブレット) を用意し、児童生徒が選択できるようにしている
深める	思考を深める話し合い活動	ねらいをもってペア・トリオ・グループ等の活動や全体での発表を取り入れ、思考が深まる手立てを講じている
	発表	ペアやグループ、全体で考えを発表する機会を設けている 小黒板やICTの活用をし、思考が深まる手立てを講じている。
まとめる	児童生徒とのやりとり	教師の言葉でまとめるのではなく、児童生徒の気づきや発言を大切に、やりとりを通して学習のまとめを行っている
	課題と正対	課題に正対したまとめとなっている
	適期問題・発展問題	学習内容を生かして、解くことのできる問題を提示し、学習の理解度を確認したり、さらに理解を深めたりすることで、意欲を向上させる
振り返る	時間の確保	「振り返る」活動の時間をしっかりと確保している
	積み重ね	毎時間の振り返りを積み重ねて行い、学習の繋がりを意識したり、自身の成長を感じたりできるようにしている
	観点を意識した振り返り	めあてや課題に沿って、3つの観点を意識した振り返りを行っている
3つの観点	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」	

子どもたちが本時の学習イメージできて、「考えてみたい」「解いてみたい」「ワクワクする」と思えるような導入をしていきたい。

子どもたちが、意欲的に学習参加してほしい。そのためにも自分に合った学び方の選択を、安心してできるように準備をしていきたい。

子ども自身が学びの成果を感じられるような振り返りができるようにしたい。そのためにも時間の確保や課題の明確化が必要。

取組チェックシート 2

★すべての教科・学校生活全般

UDの視点	具体的取組例（一部）
児童生徒理解	困り感を抱えている子の把握している
	支援が必要な子の具体的な困り感がピックアップできている
	具体的支援方法を考え、取り組んでいる
学級経営	叱る言葉より、褒める言葉の方を多く使用し、指導している
	どの児童生徒も安心して過ごすことができる学級になっている
	困ったことがあったら、SOSが出せる学級になっている
視覚化	お互いの長所や短所を理解し、必要に応じて助け合える人間関係ができています
	言葉だけの指示にらず、板書等を効果的に活用できている
	チョークの色を工夫して使用できている（UD用のチョークでない場合は、赤は見えにくい）
動作化	一日のスケジュール等がわかるような掲示物がある
	発表場面で聞くだけの時間が長ならないような取組の工夫をしている
	発表物を利用して考えることができる支援を取り入れている
焦点化構造化	1時間の授業で聞いたまま、座ったままの授業にならないよう工夫している
	集中力の持続が難しい子に、必要な時間帯に「動き」を取り入れた支援をしている
	めあて・まとめ・振り返り等が板書を見れば、すぐにどこに書いてあるのかわかる
指示方法	子供たちにとって授業のめあて（取り組む内容）が焦点化され、明確になっている
	1時間の授業の中に「山場」があり、メリハリのある授業になっている
課題選択	長い文章で伝えず、短く明確に伝えている
その他	授業や宿題など、自分に適した方法で学習ができるよう、「学びの選択」の場面を取り入れている
	マイナスな言葉を使わないよう心掛けている 例) まだできない、また聞いていない、どうせできない、やる気がないのか 等

ユニバーサルデザインって **安心安全**
 特別な支援を要する子供には「ないとする支援」であり、どの子供にも「あると便利で・役に立つ支援」である。
 その結果として…
 すべての子供たちの
 過ごしやすさと学びが
 向上します↑

そのために意識したいことは

児童の実態がわかる！
 児童の強みがわかる！
 児童の困り感が分かる！
 児童の困り感を一緒に解決したい
 子どもの思いを知りたい
 子どもの困り感を一緒に解決したい
 自分が困っていることを子どものせいにはしない

児童理解・アセスメント力

全ての教科において、指導案を作成する際にUDの視点を記載することになっている。また、教育委員会や特別支援学校教諭等が通常学級を定期的に巡回訪問し、支援・指導を行っている。

学び方の選択・学ぶ場の選択ができることが
 安心な学びにつながります！

2 ICT を活用した個別最適化の実践

1 授業の活用



算数

- 自分の考えを友達に伝え、深める時間
- 自分の考えを言葉だけで伝えられない子は視覚的な材料があると表現できます。また聴覚情報のみでは理解できない子もわかりやすくなります。

英語

- 英語を話す・聞く力をつける時間
- 一人一人がデジタル教科書の英文を見ながら自分の発音を録音し、聞き返す等、自分のペースで繰り返し練習をすることができます。また、英文のスピードを変えながら英語を聞きとる力をつけることもできます。



国語

- おすすめの本を紹介するための練習の時間
- 本の紹介をプレゼンしたものを録画し、それを振り返りながら改善していきます。また友達とも見合いながら、アドバイスをもらって良いものを作ります。

2 相談室や適応指導教室での活用



相談室から、自分のペースで、オンライン授業に参加したり、参観したりすることができます。集団が苦手な子など、個に応じた学びの支援が可能になります。また授業に参加するだけでなく、グループクラスルームでの課題のやりとりやドリル学習が可能です。AI が本人の力に適した問題を選択もしてくれます。

3 家庭学習での活用



- ・ドリル学習（AI 機能の活用）
 - ・動画撮影機能を使った音読や英語のスピーキング等の取組と提出
 - ・カメラ機能を使った月の観察記録や季節の自然の記録等
- ☆学び方の選択が可能

【実施することでの児童・生徒の姿】

- ・自己理解をし、自分に合ったが学びができることで安心して取り組むことができます！
- ・基礎学力のアップにつながります！ ・学習に対する自信が芽生え、自己肯定感が高まります！